

楓

ふうえん

園

特集

# 「敬神奉仕」

英和の日々 ● 6

NEWS 大学・大学院／中高部／小学部  
東洋英和幼稚園／大学付属 かえで幼稚園 ● 7

この人に聞く 網中 彰子 ● 13

聖書の言葉／訃報／史料室レター／TOYO Wa-Wa ● 14  
英和星空探訪／同窓会より／後援会より／お知らせ ● 15



新マーガレット・クレイグ記念講堂の「敬神奉仕」(齋藤實子爵揮毫)



# 「敬神奉仕」



マーガレット・クレイグ記念講堂での礼拝（1940年3月卒業記念アルバムより）  
壇上は、ミス・ハミルトンだと思われる

## 敬神

心を尽くし、精神を尽くし、  
思いを尽くし、力を尽くして、  
あなたの神である主を愛しなさい。

マルコによる福音書 十二章三〇節

## 奉仕

隣人を自分のように愛しなさい。

マルコによる福音書 十二章三一節

## 建学の精神をめぐって

院長 深町 正信

東洋英和の建学の精神である「敬神奉仕」。  
今号の特集では、改めてその意味や歴史をお伝えするとともに、  
幼稚園から大学までの各部署で育まれ、実践されている  
「敬神奉仕」についてご紹介します。

一八八七（明治二〇）年まで、日本に於けるキリスト教学校は外国からの宣教師たちの建てたミッシオン・スクールと日本人の創ったキリスト教学校とを含めて五二校でありました。これに対して、公立の学校は全国で僅か一四校しかありませんでした。明治初期の日本では江戸時代以来、長らく「男尊女卑」の国であり、また、「女大学」等により、女性を男性のように人格として認めず、学問など要らないという国柄でありました。

しかし、宣教師たちはその当時の日本人女性の置かれていた社会的地位の低さ、教育程度の貧しさに憤慨し、これらを克服するため、女子教育により、明日の日本への希望と期待をかけようと考へて、非常な熱意をもって女子教育の振興のために乗り出しました。

一八八四（明治一七）年に、カナダ婦人ミッシオンは、日本に於けるキリスト教女子教育のために、マーサ・J・カートメル先生を宣教師として派遣してきました。そして、先に派遣されて来ていた男子宣教師たちの協力のもとに、東洋英和女学校を現在の麻布の地に開校しました。爾来、一三二年間、東洋英和女学院は自立した女性を日本のみならず世界の各界に送り出してきました。

建学の精神はキリスト教信仰による人格形成にあり、「敬神」「奉仕」に生きる女性の育成であり、知識と敬虔の融合する人間の形成こそが東洋英和女学院の教育理念であります。つまり、キリスト教学校としての教育の究極的目的は、主なる神様を前に膝を屈めて、心から礼拝することのできる人間を育成することにあります。そして、愛と奉仕に生きる人を一人でも多く世界の各界に送り出すことにあります。女子の一貫校としての東洋英和女学院はキリスト教信仰にもとづく人格形成とキリスト教文化と価値観、幅広い教養を自由に学ぶ学校として今後も大いに充実、発展することを心から願うものです。

東京大学の総長特別補佐、東京女子大学の学長をされた隅谷三喜男先生はご著書の『近代日本の形成とキリスト教』の中で、「明治初期のキリスト教徒の活動の中で最も広範囲に広く行われ、また、最も重要な意味をもったのは、婦人の解放であった」と、特に、「女子教育」にあったと指摘されています。この女子教育の女性観こそがその当時の日本において誠に革命的意味をもつ出来事であったと結論づけておられますが、私も同感であります。

## 「敬神奉仕」の制定（一九二八年）

一九二五年に校長に就任したミス・ハミルトンは、一九三四年に創立五〇周年を迎えるにあたり、その記念すべき年を祝うとともに、五〇周年の先の更なる発展のために、次々と学校の組織を整えていきました。その時期に制定されたのが、今も大切に引き継がれている校章、制服、校旗、標語「敬神奉仕」、校色そして校歌です。

標語は、広く在校生や同窓生から候補を集め、校内につくられた制定委員会によって「敬神愛人」「敬神愛隣」「敬神奉仕」の三つが提案され、教員会での投票で「敬神奉仕」が選ばれて決定しました。

一九三四年に制定された北原白秋作詞・山田耕筰作曲の校歌にも、「神を思ふ清らけきもの」「人につかふ虔しきもの」との歌詞に「敬神奉仕」が織り込まれています。

### 【ハミルトン校長就任～創立50周年の主な出来事】

1925 (大正14)年 5月	ミス・ハミルトン第15代校長就任
1927 (昭和2)年	校章・制服の制定
1928 (昭和3)年 11月	校旗・標語「敬神奉仕」・校色の制定
1933 (昭和8)年 3月	マーガレット・クレイグ記念講堂献堂式
1933 (昭和8)年 8月	ヴォーリス設計による新校舎竣工式
1934 (昭和9)年 5月	財団法人東洋英和女学校設立認可
1934 (昭和9)年 9月	校歌の制定
1934 (昭和9)年 11月	創立50周年記念行事

## 「敬神奉仕」の書

東洋英和が大切にしている「敬神奉仕」は、英和生や教職員の目に触れる場所に掛けられています。現在は掛けられていないものも含めて、「敬神奉仕」の書をいくつか紹介します。

### ■ 齋藤 實



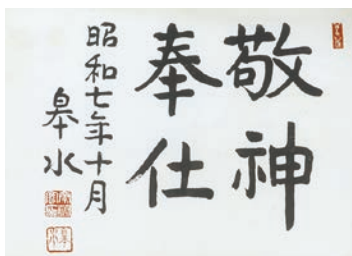
写真提供：齋藤實記念館



春子夫人

一番知られているものは、新マーガレット・クレイグ記念講堂の左右にかけられている齋藤實子爵によるものでしょう。春子夫人（旧姓仁禮）が初期の東洋英和女学校の生徒だったご縁から、「敬神奉仕」の揮毫を依頼したものです。

齋藤子爵の「敬神奉仕」は三つ存在します。一つ目は、一九三二年五月に第三〇代内閣総理大臣に就任した記念に同窓会が依頼し、

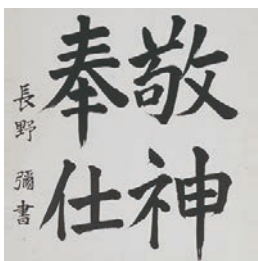


一九三二年一月に揮毫されたものです。署名は「皋水」の号となっています。残念ながら、この書は現物が所在不明で、画像しか残っていません。

二つ目は、新マーガレット・クレイグ記念講堂の左右に掛けられている縦書きの「敬神奉仕」、そして三つ目は、中高部職員室前の廊下に掛けられている横書きの「敬神奉仕」です。どちらも署名は「子爵齋藤實書」となっています。揮毫された正確な時期は不明ですが、一九三四年十一月六日の創立五〇周年記念式典の際は、講堂に掛けられました。

二つ目は、新マーガレット・クレイグ記念講堂の左右に掛けられている縦書きの「敬神奉仕」、そして三つ目は、中高部職員室前の廊下に掛けられている横書きの「敬神奉仕」です。どちらも署名は「子爵齋藤實書」となっています。揮毫された正確な時期は不明ですが、一九三四年十一月六日の創立五〇周年記念式典の際は、講堂に掛けられました。

### ■ 長野 彌



長野彌先生は、一九三三年に東洋英和女学校の数学の教師として着任し、戦時下の困難な時代

を経て、戦後の約二五年間院長として学院発展の基礎を築いた先生です。年代は不明ですが、色紙に書かれた「敬神奉仕」が、中高部教員室から二〇一三年に学院史料室に移管されました。

### ■ 濱崎 次郎



一九三三年～七一年まで鳥居坂教会の牧師を務められた濱崎先生は、聖書の授業や礼拝等、さまざまな場面で東洋英和のキリスト教教育に携わってくださった先生です。短期大学が六本木校地にあつたころ、短期大学にも「敬神奉仕」の書を、とのことで、濱崎先生に揮毫していただいた横書きの「敬神奉仕」は、短期大学が横浜校地に移ると同時に場所を移動し、現在は大学七号館の会議室に掛けられています。

# 学院各部の「敬神奉仕」

## 【東洋英和幼稚園】「敬神奉仕」の子どもたち

東洋英和幼稚園長 鈴木 法子

幼稚園で子どもたちは、友だちや先生たちとともに遊び、祈り、心身を存分に動かしつつ毎日を過ごしています。縄跳びに何回も挑戦する子ども、慎重に大工の活動に取り組む子ども、友だちの思いに寄り添い、ごっこ遊びを進めていく子ども…子どもたち一人ひとりの姿を見ておきますと、神さまがお与えになった賜物が、どれほど多様で豊かであるかを実感します。その賜物を神さまに感謝し、自分のためだけに用いるのではなく、他者や社会のために用いることのできる「敬神奉仕」の子どもであつてほしいと、教職員は日々、願っています。

幼稚園の「敬神奉仕」を象徴する活動が银杏献金です。秋には、幼稚園の庭のいちごがぼとり、ぼとりと実を落とします。子ども



ぎんなんの袋詰め



ぎんなん献金

たちは先生と一緒に落ちた银杏のわたを箸で取り、洗い、乾かし、袋に詰め、思い思いの絵を描いたカードを添えて、银杏献金の用意をします。このようにして整えられた银杏は、幼稚園や小学部の保護者の方々、小学部や中高部、法人本部の教職員の方々に献金をお捧げいただく代わりに、差し上げます。捧げられた献金は、バンダラデシュの子どもたちの学校の建設や、東日本大震災での原子力発電所の事故の被害が続いている福島の子どものため、熊本地震で被害を受けられた方々に用いていただいております。

银杏献金は秋から冬にかけての活動ですが、年間を通して幼稚園では近くや遠くの友だちを覚えて「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である

主を愛しなさい」「隣人を自分のように愛しなさい」の、みことばを心に刻みつつ、園生活を送っています。

## 【小学部】どこを切っても「敬神奉仕」

小学部長 山本 香織

「私は小学部が大好きです。理由の中で一番大きいのは、この学校が『敬神奉仕』を大切にしていることです。『敬神奉仕』は神様を愛し、人に尽くすことです。だから小学部では一日の中でたくさんお祈りをし、讃美歌を歌い、また人のことを考えて生活しています。」という言葉で始まったのは、二〇一五年の創立記念日に行われた第二回東洋英和女学院教育シンポジウムでの、小学部六年生の発題です。さらに友だち、先生、神様の愛に包まれた楽しい学校生活について紹介された後、「敬神奉仕」の精神をずっと守り続けて、私の子ども、孫の代まで、私の好きな小学部でいてほしいです。」と結ばれています。またもう一人の児童の発題には、「宣教師の先生方が海を渡って、東洋英和をつくってくたさったように、私も将来は海外で人の役に立ちたいと願っています。」とありました。

小学部で六年間を過ごすうちに、このように「敬神奉仕」の精神が心に根づくということに感動いたしました。

「小学部はどこを切っても金太郎飴のように『敬神奉仕』の精神が満ちている。」と、以前非常勤講師の先生がおっしゃっていました。その嬉しい評価が本当のことであるとしたら、それは小学部には長い間、専任聖書科教諭（牧師）がいなかったことに関係があると思います。教員全員で「キリスト教教育」を担う伝統があつたのです。今でも洗礼を受けているいないにかかわらず、全員が「敬神奉仕」の担い手としての自覚を持っています。小学部ではキリスト教教育は礼拝・聖書科授業・キリスト教行事のときに限りませ

ん。聖書科以外の教科にも「神の愛を分かち合うため」、「神と人への奉仕」、「神を賛美」などの文言が教科目標の中にあり、また時をとらえて学習活動の中や、日常的な触れ合いの中で信仰が伝えられています。そして何より、子どもたち、教職員たち、保護者の方たちの祈りが、「敬神奉仕」の歩みをささえていると思っています。



小学部全教室には、故竹井美智子先生（1986年ご退職）が書かれた「敬神奉仕」が掲げられています



朝の礼拝の風景（黒板の上に「敬神奉仕」）

などの文言が教科目標の中にあり、また時をとらえて学習活動の中や、日常的な触れ合いの中で信仰が伝えられています。そして何より、子どもたち、教職員たち、保護者の方たちの祈りが、「敬神奉仕」の歩みをささえていると思っています。

## 【中高部】 敬神奉仕を実践する女性になるために

——中1ディアコニア活動の取り組み

中1学年主任 塩田 真理子

約三〇年前、有志の教師を中心に中1ディアコニア活動が始まりました。実践的な活動を通して、構えることなく配慮しながら他者を助け、思いを分かち合えるようになってほしいとの願いが発端です。試行錯誤を重ねながら手探りで活動を進めていくうちに、徐々にプログラムが固まってきました。今では「敬神奉仕」を身にまとうための大切な活動となり、ほぼ全員の教師がさまざまな場面で関わっています。ディアコニアとは「隣人に仕える」を意味するギリシャ語で、主な内容は次の通りです。

- ① 施設訪問のための事前指導
- ② お花を携えての施設訪問
- ③ 高齢者の模擬体験
- ④ 夏のボランティア
- ⑤ 車いす体験学習
- ⑥ 視覚障がいの方の講演
- ⑦ 点字学習
- ⑧ 聴覚障がいの方の講演
- ⑨ 指文字の学習



施設で高齢の方と語り合う生徒たち



力を合わせて慎重に坂を下る生徒たち

体験しながら自ら考えることを主眼におき、毎回の活動後に活動記録を提出し、ファイルにまとめていきます。生徒たちは気付いたこと、感じたこと、得たことを丁寧に詳細に記述しており、しっかりと受け止めている様子が感じられます。活動記録の抜粋を二つ紹介します。

（車いす体験学習）「実際に乗ってみて、声かけをもらうことの大切さがわかった。介助するときは、乗っている方に衝撃が伝わらないように工夫し、進む方向、段差や溝などいろいろなところに気を配らないといけないと思った。通学途中などで勇気を持って手助けし、役に立てるように心がけようと思います。」

（夏のボランティア）「最初はお年寄りとの接し方に戸惑っていました。百人一首やカルタをするうちに距離が縮まり、楽しい時間を過ごすことができました。子ども、大人、お年寄りと区別して考えることで、お年寄りを遠ざけてしまっているように思います。お年寄りとお話することで、先人の知識を受け継ぎ次世代につなげる。そんなリレーを続ける人になりたいです。」

生徒たちは、いろいろな体験を柔らかな心と頭で率直に受け止めています。これからもディアコニア活動を通して、生徒とともに学びを深めて、敬神奉仕の姿勢を育んでいきたい、と思います。

## 【中高部】 豊かな実を結ぶ敬神奉仕の精神

——「YWCA主催東北ボランティア」と「夏期修養会」

学院宗教部長・中高部聖書科教師 高橋 貞二郎

一人ひとりにまかれた敬神奉仕の種は、学校生活の中で少しずつ育ち、実践という仕方でも豊かに実を結んでいきます。今回は、その中でも東日本震災支援を巡って学校全体で行われている代表的な二つの活動、「YWCA主催東北ボランティア」と「夏期修養会」についてご紹介します。

年も経ったのだから、もう行かなくても他の人たちが間に合っているのではないか。そう考える人もいるかもしれません。しかし、実際に現地に行ってきた私たちはそうではない、と強く言えます。「地震は終わったけれど、震災は終わっていない」。私たちが皆さんに一番伝えたいことです。」と述べています。

中高部YWCAは、震災が起きてすぐに校内に呼びかけ必要な物資を送りするなど、支援活動を行いました。ですが、二〇一三年からは、夏休みを使って実際に東北へ赴き、二泊三日現地で過ごしながらボランティア活動を行っています。始めた頃は、津波を被ってしまった畑をもう一度使えるようにするための労働奉仕（雑草取り、がれきの撤去など）が中心でした。ですが今年は何年と違い、三月十一日に何があったのかを聞いてほしい、そして知らない人に伝えてほしい」という現地の方の願いから、労働奉仕に加えてお話を伺う時間も多くなりました。参加した生徒は礼拝報告で「五

もう一つの活動である夏期修養会は、震災が起る前まで牧師先生をお招きして聖書のお話を伺い、自分たちがどう生きるかを考えるという行事でした。ですが、二〇二二年の夏期修養会で教師と生徒が一緒になってこれからの修養会の在り方を話し合い、その結果として翌年から、原発事故による放射能汚染の影響で外であまり遊べない保育園の園児たち以外で楽しんでもらうと追分寮へお招きして行うようになりました。今年も八月一〜三日、福島県南相馬にある聖愛こども園の園児二五名を追分寮にお招きし、有志参加生徒はレクレーションの企画、絵本の読み聞かせ、生活のサポートを献身的に行いました。それだけでなく、共に礼拝を守り、被災地の現状を伺い、これから自分たちに何ができるか聖書を踏まえて考えました。

このように敬神奉仕の精神は学校生活の中で育ち、実践へと結びついています。この精神を身につけた英和生が、卒業後も社会でよく働けますように祈っています。



被災地に種をまく英和生「しっかりと育ちますように」と祈りを込めて



追分寮で、園児たちと素敵な思い出を作ることができました

## 「大学」最も重要な掟——「敬神奉仕」によせて——

大学国際社会学部国際コミュニケーション学科教授 島 創平

マルコによる福音書十二章二八〜三一節は、ハミルトン校長の時代に定められた、東洋英和の学校精神を表わす「敬神奉仕」の標語の基盤となっている聖書の言葉であり、本学の入学式や卒業式など、折々の節目に引用され、我々にはなじみ深い聖句である。

ここでイエスは、最も重要な掟は何かというある律法学者の質問に対し、旧約聖書の律法から、申命記六章四〜五節と、レビ記十九章一八節を引用し、「神を愛すること」と「隣人を愛すること」の二つを最も重要な掟としている。本学の標語では、「神を愛すること」が「敬神」に、「隣人を愛すること」が「奉仕」に対応している。それではなぜ、この二つの掟が、同時に「最も重要な掟」とされているのであろうか。

まず「神を愛すること」は、神からの愛によって一方的に救われた人間の、神に対する



T.C.F. (聖書研究会) による礼拝



オーケストラ部 特別養護老人ホームでのミニコンサート

感謝と喜びから生ずる。すなわちそれは、神と人との垂直的な愛の関係を示している。しかし、このような神と人との関係だけでは、「神を愛すること」は個人的レベルに留まり、ともすれば、一種のカルトに陥る危険がある。すなわち、個々人の「神を愛すること」により生ずる喜びと感謝は、人々が互いに愛し合い、この喜びを分かち合うことにより具体化され、現実化していかねばならない。

このようにして、「神の愛」という、神と人との垂直的な関係は、「隣人愛」という、人々との水平的な関係を通じて、地上に豊かな実りをもたらすのである。それゆえ、「神を愛すること」と「隣人を愛すること」は相互に不可分の関係にあり、隣人愛なしに真に神を愛することはできず、一方神を愛することなしに、真の隣人愛はあり得ない。本学の標語で言い換えるならば、「敬神」なしに真

の「奉仕」はあり得ず、また「奉仕」なしに真の「敬神」はあり得ないのである。キリスト教は、そのシンボルである十字架の形が示すように、神と人という垂直的な関係と、人と人という水平的な関係から成り立っているのである。

## 「大学付属かえで幼稚園」神様に愛されているから

大学付属かえで幼稚園長 大漣 知子

二〇一六年十一月七日(月)、創立記念日を感謝しての礼拝と父母の会コーラスサークルによる音楽会をもちました。その折に、子どもたちと一緒に「けいしん」「ほうし」という言葉を口にし、その響きと共にその言葉にこめられているメッセージを心にとめました。(幼な子たちには難しい言葉ですが、くりかえし聞くことで大切なものを知っていくと信じます)

神様に深く愛されている私たちが、『まず神様を思い、敬い、祈り、感謝して歩むこと』。そして『イエス様のみことばに導かれて、友だち・家族・出会う人々・やがては地球上のさまざまな状況の中に居る人々を尊び、その人のために自分の心とからだを動かすこと』。このことが、子どもたちのこれからの人生の道しるべになりますようにと祈ります。『敬



エスタ先生と子どもたちとのひと時



ケニアへの献金を郵便局へ送金する子どもたち

『あなたがたは、神に愛されている子どもです』(エフエソの信徒への手紙五章一節より)：共に愛されていることを支えと力にし、愛することのできる私たちになりたいと願います。

# 英和の日々

2016年8月～2016年11月

## 東洋英和幼稚園



どんぐり拾いをする子どもたち

- 父と遊ぶ日 9月17日(土)  
(年少・年中)  
小学部グラウンドで父子の運動会を楽しみました。
- 祖父母の会 9月30日(金)  
おじいさま、おばあさまを幼稚園にお招きしました。
- どんぐり拾い  
10月11日(火)〈年長・年中〉  
福島県の聖テモテ幼稚園の子どもたちのために、青山公園へどんぐりを拾いに行きました。
- 創立記念日礼拝  
11月7日(月)  
全園児共に礼拝を守りました。
- りんご園遠足  
11月11日(金)〈年長〉  
晴天に恵まれて上田までりんご狩りに出かけました。

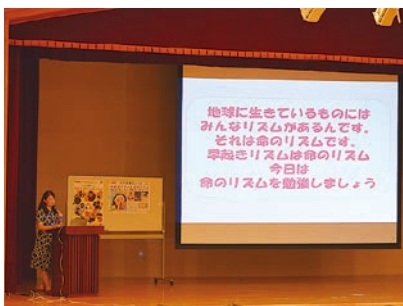
## 大学付属かえで幼稚園



創立記念日音楽会

- 五歳児キャンプ  
今年9月2日(金)に幼稚園で午後の時を過ごすデイキャンプ、九月五日(月)～六日(火)に幼稚園に泊まるキャンプをしました。
- ファミリーデイ  
10月15日(土)  
大学のグラウンドで家族の方々と体をいっばい動かして楽しみました。
- 創立記念日礼拝・音楽会  
11月7日(月)  
神さまのご計画によって学院が創立され、守りと導きによって今日に至ることを感謝し礼拝をしました。その後、コーラスサークルのお母様による音楽会を楽しみました。

## 小学部



心と体の勉強会でお話しされる星野恭子先生

- 六年生修学旅行  
9月12日(月)～15日(木)  
琵琶湖での環境学習をはじめ、東洋英和と深い関係のあるヴォーリス氏の足跡を訪ねたり、奈良・京都での日本の伝統的文化を学んだり、充実した日々を過ごしました。
- 心と体の勉強会  
9月29日(木)  
小児科医の星野恭子先生をお招きし、「笑顔のひみつは生活リズム」と題してお話を伺いました。
- 球技大会  
10月3日(月)～5日(水)  
10月3日(月)～5日(水)の学芸会 11月25日(金) アドベントを迎える会  
11月28日(月)  
全校で、クリスマスに向けての礼拝を守りました。

## 中高部



楓祭 ダンス部公演

- キャンプ(野尻湖)  
8月1日(月)～6日(土)  
学年の壁を越えた仲間と共に、水泳・ボート・ヨット・カヤック等に挑戦しました。自然を通して神様の存在を実感することができました。
- 楓祭  
10月21日(金)、22日(土)  
今年度はテーマ「NEXUS(つながり・絆)」のもと、英和生らしさがあふれる文化祭となりました。
- 中学部球技会  
11月22日(火)  
日ごろのチームワークを発揮して、バスケットボールの試合をしました。クラスの団結がさらに深まりました。

## 大学・大学院



村岡花子記念講座開設企画セミナー第1回「女子教育とミッションスクール」

- 【大学】  
■村岡花子記念講座開設企画セミナー  
港区との連携事業  
第一回 10月15日(土)  
第二回 10月29日(土)  
第三回 11月19日(土)  
来年度開設する記念講座のプレ企画として、パネルディスカッションと講演で構成される全五回のセミナーを実施しました。第四回・五回は一月に開催。
- かえで祭  
11月2日(水)・3日(木・祝)  
11月18日(金)
- 【大学院】  
■学位授与式・後期入学式  
9月17日(土)

# 国際社会学部の海外体験型授業

## 国際社会学部国際社会学科 「海外研修」

「東ティモールで異文化体験」

国際社会学部国際社会学科教授

河野 毅



夜明けの東ティモール最高峰ラメラウ山頂の聖マリア像。1997年イタリアの支援により建立されました

東ティモール国民にとってラメラウ霊山は神聖な祈りの場であり誇りなのです。その誇りを共感して東ティモールを理解することは、今回の海外研

修の一つの目的でした。

国際社会学科の科目「海外研修」では、二〇〇二年の独立以降の東ティモール民主共和国の「国造り」について考えながら、現地体験を通じ自分の気持ちを自分の言葉で表現する力をも身につける目的で実施されました。この一〇日間の海外研修には国際社会学科二年の遠藤佳奈さん、渥美りかさん、大塚真菜さんが参加しました。

一五回の授業のうち九回は出発前授業で、日・英語二冊の教科書を読み、東ティモールがインドネシアに併合される過程と独立へ至る戦い、一九九九年に国連が実施した住民投票前後の混乱と独立後の課題について学びました。授業で学んだことをもとに、学生は英語で My Dream for Timor-Leste という三〇〇語程度のエッセイを書き、東ティモールへのそれぞれの願いを書きました。遠藤さんは東ティモールが国際社会で主張しつづける国であることを願い、渥美さんは東ティモールの子どもたち全てに教育の機会が提供される日を願い、大塚さんは東ティモールの若者が自らの国を世界にもっと発信してほしい、そのお手伝いをしたい

と願うエッセイを書きました。このエッセイをもとに、学生三名はコンスタンシオ・ピント商工・環境大臣



コンスタンシオ・ピント商工・環境大臣を表彰訪問

とクヌット・オスビー国連常駐代表にそれぞれの願いを英語で説明し、山本榮二日本国大使には日本語で説明し、それぞれコメントをいただきました。



ホボナロ県マロポで宿泊した前村長のお宅にて

現地の母語であるテトウン語も少しですが学び、東ティモールの人たちと交流しました。岩手県ほどの小さな国家ですが、山地が入り組む地形のため、各地で言葉も違い、習慣も変わります。マロポ硫黄泉（登山後湯治しました！）で有名なホボナロ県マロポでは宿泊した前村長宅の奥様（写真左端）と運転をしてくださったラウテム県イリオマール出身のルイス

さん（同右端）からはそれぞれの村の言葉と文化の違いをお聞きしました。もちろん、世界的に有名なティモール・コーヒーも試しました（日本ではあまり手に入りませんが十一月の祭で披露しました）！

日本とは違う空気を吸い、食事をし、現地の方と交流すると、大きな違いを感じる。同時に自分自身を見つめ直すことを強いられます。そして自分を見つめ直すことで全く違う環境で生きる東ティモールの人々と自分との共通点が見えてきます。ただ、その共通点は学生それぞれが考える努力をすることで明らかになります。参加した学生は現地で何を思ったのでしょうか？（本学ホームページにその一部が書かれています） ↓ <http://www.toyoeiwa.ac.jp/daigaku/kokusai/2016/09/6.html>

授業から現地研修まで学生が考える努力をする、その結果、柔軟な考え方をもち、傾聴力があり好奇心旺盛で自立していく女性を育成するようにデザインされている国際社会学科の海外研修です。是非皆さんも体験してください！

## 国際社会学部吉川ゼミ

### 「世界を見る。カンボジア研修

国際社会学部国際社会学科教授

吉川 健治

国際社会学部・吉川ゼミのテーマは「国際協力」。アジアの現実を知る目的で二〇〇八年から東南アジアでの研修活動を行っています。これまでカンボジア、ラオス、ベトナムを訪ね、現地で活動するNGO等を見学してきました。今年も、三人のゼミ生とカンボジアに向かいました。「いつも微笑んでくれる」、初めての海外という二年の西山佳菜子さんの第一印象です。カンボジアの人たちはおおらかに微笑を絶やしません。人々の穏やかさにこちらも思わず頬が緩みます。内戦・貧困状態から脱して経済も順調らしく、首都プノンペン市では車、バイクがひしめき活気にあふれていました。

しかし、厳しい現実もあります。プノンペン市郊外の村は錆びたトタン屋根の家屋が並び、教育機会がなく職を得られない人も多いといえます。NGOが支援する幼稚園を訪ねると、三歳〜五歳の子どもたちが仲良く給食を食べていました。スタッフのシンプルな説明が印象的でした。「友だちを大切に作る気持を持つこと。それが平和への第一歩です」。

プノンペン市にある「トゥールスレイ

ン博物館」でのこと。残忍なポルポト政権による虐殺の記憶を留めるために設置された博物館です。ポルポト政権下、わずか四年ほどの間に人口の四分の一、百数十万人が犠牲になりました。政権の思想に反するというだけが虐殺の理由でした。あまりの悲惨さにみんな沈黙してしまいました。「日本で平和ボケしていいいけないね」と二年の堀口結衣さんは眩きました。

世界遺産のアンコール遺跡に近いシェムリアップでは、日本人が運営する孤児院を訪ねました。貧困、DVなどが原因で身を寄せる子どもたち。ノートを取りながら勉強する高校生たちの眼差しは、自分の未来をつかみとろうと真剣です。「何を学ぶかその意味が分かったような気がする」と二年の白川知佳さん。

五日間という短い滞在でも、異なる文化、環境に身を置いて、カンボジアの人々から多くを学びました。発展、平和とは何かを考えました。誰かが思い出したように金子みすゞの詩の一節を口にしました。「みんなちがって、みんないい」。多様性を認め合う社会がいい。旅を総括する一言でした。



プノンペン市郊外の幼稚園

## 英和の小農園「すくすく村」

### 「二〇一六年度PBL学内公募採択プログラム

人間科学部保育子ども学科  
三年 氏原万優子  
三年 中村 薫

キャンパスの一角に

拓いた畑の活動も二年目となりですが新しい発見や出会いの下で、今年も去年より多くの種類の野菜たちを育てました。みんなで話し



とうもろこし種まきの畝づくり

合い何を育てるか決め、今年はおくら、シシトウ、里芋、そしてスイカが新しく仲間入りしました。畑の耕しと種植えは四月から開始します。同じ野菜でも違う種類の種を蒔くことによって、形や味の違いを楽しみながら育て学ぶことができました。また、野菜を育てる事は簡単ではないと身に染みて感じる事ができる活動でもあります。

去年、種まきの時期が遅く成長が滞ったトウモロコシは反省点を生かし、今年はずっとまきの時期を改めて順調に育てる事ができました。しかし、トウモロコシの実が段々と成長していく大事な時期に、周りをネットですくすく育てていたにも関わらず、ハクビシンがわずかな隙間から侵入した事により九割が食べつくされてしまいました。あと少しのところ、今年もトウモロコシを収穫することができませんでした。悔しさを味わい、来年こそはハクビシン対策に力を入れてトウモロコシを育てていこうと考え

ています。

今年初めて挑戦したスイカは、村上哲朗先生が実の名前をつけながら大事にみんなが育てました。小さな実はいくつかかなり大きくなりましたが、やがて実が黒くなり、なかなか大きく成長してくれず苦戦していました。スイカは小玉スイカだったので、ずっしりと重みを感じられる程の大きさになってから収穫しました。初挑戦だったにも関わらず中まで真っ赤な、とても甘くて美味しいスイカを三個も収穫することができました。

その他の夏野菜たちもすくすくと育ち、美味しい野菜をたくさん収穫できました。夏休みは授業がなく学校に来ないため、先生を中心に水やりをしていただき、学生も予定を決めて協力しながら水やりを行い夏を乗り越えました。

日々の水やりは、週一で担当を決め行っています。週に一度周期で畑に行くことで野菜たちの成長を適度に学ぶ事ができます。野菜の成長は思った以上に早くとても面白く、次に出会うときはどんな姿になっているのかを楽しみにしています。雑草とりも適宜行い、大事に野菜たちを育てています。



初挑戦のスイカの収穫、名前は「子哲」

# スウェーデン・ イエーテボリ・ユースクワイアとの交流

## ―ジョイントコンサート―

中高部合唱部顧問 武田 ゆり

中高部が取り組んでいるグローバル教育プログラムの一環として、スウェーデンのイエーテボリ・ユースクワイアと合唱部とのジョイントコンサートが昨年八月二〇日に開催されました。

イエーテボリ・ユースクワイアは、二〇〇六年にアン・ヨハンソン女史により創立され、国際的に活動している実力のある合唱団です。

前日の午前、ウエルカムセレモニーが行われました。生徒によるパイプオルガン、ハンドベル演奏、指揮者アン・ヨハンソン女史、露木美奈子部長の挨拶、生徒会による学校紹介が行われ、クワイアの方々に歓迎しました。クワイア四名のメンバーの内、三三名が大学生、八名が高校生であり、女性二七名、男性一四名という構成でした。この日はコンサートに向けてのリハーサルが終日行われました。

当日一四時より、新マーガレット・クレイグ記念講堂にてジョイントコンサートが開催されました。ユースクワイアの自然な身振り手振りやステップ・ダンスを取り入れた「見せる演出」が新鮮で、声量豊かな美しいハーモニーが大講堂に響き渡り、ま



ヨハンソン女史と露木部長のコンサート開会の挨拶

さに圧巻でした。クワイアと合唱部との合同曲「ふるさと」は参加者の心に残る合唱になったのではと思われます。コンサート終了後、アフターパーティーが開かれましたが、三七組のホストファミリーの方々がご参加いただき、大変盛況な会となりました。翌朝、クワイアは合唱部員やホストファミリーに見送られ、別れを惜しみつつ次の訪問地に向けて出発しました。ご協力いただいた合唱部、合唱部OG、ホストファミリー、その調整に尽力された北崎勝彦教頭、通訳をくださった満田菜々美先生、クワイアの仲介役を担っていたいただいたジョイントコンサート国際委員会の山田洋平氏に大変お世話になりました。感謝申し上げます。コンサートは文化も言語も異なる人々との楽しく、また心に残る交流の機会となりました。

中高部

## ジョイントコンサートに参加して

高等部二年 宮谷 真夕 (合唱部部长)

ユースクワイアとのジョイントコンサートのお話をいただいた時、正直とても不安でした。夏休みには楓祭の練習があり、中学生はコンクールがあったりなどで、練習期間がとても短かったからです。しかし、心配は杞憂に過ぎませんでした。この夏、歌を通して国を超えた交流という素晴らしい経験をすることができました。

初めてユースクワイアの学生さんの歌声を聴いた時の衝撃は忘れられません。一人ひとりの歌声は力強く、本当に楽しそうで、聴いている私たちのことも自然と笑顔にしてくれました。また、エンターテインメント性も高く、とても刺激を受けました。

このコンサートは三部構成で、一部・英和合唱部、二部・ユースクワイア、そして三部では合同合唱となっていたのですが、

ユースクワイアの学生さんたちと全員でスウェーデン語の曲と日本語の曲を歌いました。母国語が違う私たちですが、歌を通してつながったというのを感じられる場面でもあり、特にとても印象に残っています。アフターパーティーでは、スウェーデン人の学生と話したり、写真を撮ったり、OGの方が二日間の思い出の写真をまとめたスライドショーを流してくださいました。楽しい時間を過ごしました。

お別れの朝もスウェーデンの学生たちは、一緒にダンスを踊ったりして、最後まで盛り上げてくれ、みんな本当に明るく楽しい方たちでした。

このコンサートが終わった後、多くの方にとっても良いコンサートだったという感想をいただいで、本当にうれしかったです。今回の経験は私に改めて歌の力を実感させてくれたものでした。これからもこの経験を生かして、歌の力を伝えられるように頑張っていきたいと思えます。



合同曲を指導するヨハンソン女史



ユースクワイアの一番前のリハーサル



合唱部のステージ 司会は高二部員

## ホストファミリーとして

高等部一年 太田 舞 (合唱部)

私は先生を目指しているOlie (二六歳)と幼稚園の先生をしているSara (二五歳)のホストファミリーになりました。二人は婚約中で、とても穏やかな優しい人たちでした。彼らは日本の文化に興味を持ち、「銭湯に行ってみよう」というので、すこし驚きましたが、私も十年ぶりに一緒に行きました。Saraは薬風呂や打たせ湯が気に入ったようでした。兄はOlieとゲームの話で盛り上がったそうで、とても長湯になっていました。

食事では、外国人が苦手な梅干しや納豆、お箸を使うことなど、なんでも挑戦していました。同居している祖母が茶道に詳しいので、突然でしたが、お点前をすることにしました。祖母は日本語で話し、私は必死に英語にして伝えました。最後には彼らがお茶をたててくれました。それはとても



ユースクワイアのステージ



ヨハンソン女史指揮によるユースクワイアのステージ

楽しいひとときでした。

彼らが家に来る前から、どんなおもてなしをしようかとワクワクしながら家族と相談していました。日本の文化を楽しみ、また、興味を持ってくれたことが、とても嬉しかったです。

異文化に触れることは、ただその場にいらただけでなく、自ら参加していくことが大事だということ、そして、私自身が日本文化をもっと知るべきだということを実感しました。

OlieとSaraは来夏に結婚するそうです。ぜひ結婚式に来てと言われました。また会える日が楽しみです。二人をゲストではなくファミリーのように迎えてくれた家族に感謝しています。

## 合唱部OGとして

合唱部OG 北川 万梨子

私は現在大学三年生で、合唱部のOGと



合唱部、合唱部OG、ユースクワイアの合同合唱「ふるさと」



アフターパーティー スライドショーを見ながら歓談



最後に合唱部、合唱部OG、ユースクワイアの記念撮影

してコンサートに参加し、またチャリシ・プログラムの制作やアフターパーティー(懇親会)の準備に携わりました。

二ヶ月前の六月から、アフターパーティーの準備に取りかかりました。交流を深めることを目的としています。一言で「交流する」とはいつても、今回は合唱部の中高生とスウェーデンの方々との国境を越えた交流です。飲み物とお菓子を用意するだけでは、集会所が「シーン」と静まりかえってしまうのではないかと大変心配でした。

そこで、合唱部のOGの間でアイディアを出し合い最終的には、スライドショーをつくるという案に落ち着きました。スライドショーにはたくさんの写真とスウェーデン出身の歌手であるABBAの音楽を盛り込みました。写真は本番前日のリハーサルとして当日、ユースクワイアの皆さんとホストファミリーとの対面の様子や合同曲をともに歌っている様子などを撮影し、二日間

を振り返っていただけるようなものを選びました。

本番当日、コンサートでは二曲、ユースクワイアと合同で合唱をしました。一曲はスウェーデンの曲、もう一曲は「ふるさと」でした。一曲目は女声のみで歌い、一節は全員でソプラノを、二節は三パートに分かれ歌詞で、三節は三パートに分かれハミングでハーモニーを響かせるといった変化をつけました。同じメロディーでも、一曲のなかでこれほど音の深みや響きが変化することのかと驚くとともに、大人数が歌うことの喜びを感じながら合唱をしました。

終演後、アフターパーティーには予想以上に多くの方々がいらしてくださいました。スライドショーも楽しんでいただけたようで、にぎやかな交流の時間になったとの嬉しい言葉をいただきました。

英和の高等部を卒業してからも大講堂で合唱することができる喜びに感謝しています。

## 笑顔

毎朝、昇降口に立ち、子どもたちと挨拶を交わしています。なるべく笑顔で明るく迎えてあげようと心掛けています。中には、毎日のようにじゃんけんをしてくる子どもがいて、まるでその日の運勢を占っているかのようなです。(キリスト教の学校で占いはちょっととは思いますが...)。

子どもたちから質問されることも、多くあります。四、五月は、

「教頭先生は、何をしているの。」

「教頭先生のお仕事って、何。」

「教頭先生のお仕事って、おもしろいの。」

「どうして教頭先生になったの。」

と矢継ぎ早に同じ質問を繰り返されました。学年を問わず、皆が興味津々なんだと感じました。

でも、その度に、答えに困ってしまいました。教頭の仕事は本当に多岐にわたっていて、なかなか一言では言い表せないからです。なので、

「学校全体を見ているんだよ。」

と答えてしまうことがよくありました。その度に、子どもたちは、

「ふーん、そうなんだ。」

と、ちよつと不服そうに、何となく期待外れだなどといった顔で立ち去って行きます。

## 小学部教頭 岡田 光弘

質問は、給食時にも続きます。全学年を順番に回っていくのですが、好きな物や好きな食べ物、好きな教科を聞かれることは、どの学年に行ってもよくあり、時には、「私の好きな食べ物を当ててみて。」と言われて、思わず微笑んでしまうこともあります。

一番困るのが、私の名前を当ててみてです。現在、一生懸命に覚えようと努力し、覚えた子どもには、なるべく名前を呼びかけるようにしているのですが、四八〇名全員の名前を覚えることは、そんなに簡単なことではありません。制服姿では、名前が分からないので、校内循環と称して教室を回っている時、さり気なく上履きの名前を見て、覚えたり、確認したりしています。

でも、名前が消えかけていたり、無記名であったりして困ることもあります。ぜひ、上履きの記名の確認をお願いします。教頭の仕事ではないのですが、長年水槽の管理をしています。早朝に餌をあげたり、定期的に清掃をしたりしています。

現在、昇降口と家庭科室前に大小十個の水槽を並べ、錦鯉・鮎・金魚・ネオンテトラ・グッピー・プラティ・エンゼルフィッシュを飼っています。グッピーやプラティの水槽には、苔を食べてくれる(はずの)ミナミヌマエビも飼っています。

子どもたちも興味があるようで、毎朝昇降口で暫く水槽を眺めてから教室に向かう子どもの姿もよく見かけます。

家庭科室前の水槽は、場所の関係上、高学年の子どもたちが休み時間に観察しているようです。やはり、水の生き物は見て癒される部分があるのでしょうか。ただ、水槽の近くに網を置いておくと、即席の金魚すくいが始まってしまいうらしいとの報告もあります。

ある日突然、大型の金魚の数が増えてい

ることがあり、びっくりした覚えがあります。きつと、こっそり誰かが入れたのでしょうか。(グッピーやエビは、数が多過ぎて多少の増減があっても確認ができません。)よく繁殖するグッピーやエビは、いくつかの教室にも里子に出されて、飼われています。

生き物を飼うことは、命を育むことです。忙しい学校生活の中で、ちよつとした癒しの空間が作れたらと思っています。

私は、学校はどの子にとっても楽しいところであってほしいと思います。また、友だちや先生を通して、神さまの恵みを感じられるところでもあってほしいと思います。私が学校生活で大切にしていることの一つは、笑顔です。

楽しい時には笑顔が生まれます。元気な顔には笑顔が似合います。一生懸命の後は笑顔がつきものです。課題を乗り越えた時には、自然に笑顔が出ます。笑顔のある学校には、きつといいことがあります。

また、二つ目は思いやりです。思いやりのある学校には、優しさと厳しさと、支え合う強さがあると思います。

私が自分にいいきかせていることですが、『思いやりとは、自分がしてあげたことは忘れること。自分がしてもらったことは決して忘れないこと。』です。

子どもたち一人ひとりにとって、少しでも良い教育環境を整えてあげながら、毎日笑顔で子どもたちと共に歩いていきたいと願っています。



3年書道の授業：この日は、特別授業で書道の基本を楽しく学んでいました



6年放課後：素晴らしいピラミッドタワーが完成しました



昇降口の水槽：90cmの水槽に5匹の錦鯉が泳いでいます。一番大きい鯉は、30cm超です

## 裏庭の風景

園舎増改築工事によって年少組の保育室と裏庭を繋ぐ出入り口が新たに造られて二年余り経ちます。女兒三年保育が開始されて、年少組は二クラスとなりました。二部屋の間のスペースがシャワー付き足洗い場を備えたエントランスです。年少組の子どもたちは毎朝ここから裏庭へと繰り出して行きます。

ビワやカキの木、またクワやアケビなど実のなる植物に囲まれ、子どもたちは都会に在りながら四季折々の自然を感じて過ごしています。年長組が屋上に登って収穫してくれたカキやビワを味わう時、一人ひとりに「特別なおいしさ」として、その体験も伴い記憶に刻まれることでしょう。

落ち葉、花殻、種等は子どもたちの手でサラダやスープやケーキとなり、スノコの上でおうちごっこをする子どもたちのごちそうになります。またアクセサリーや魔法の杖にするなど、子どものイメージで自然



この虫捕まえようかな

の落し物はさまざまな物となり遊びを豊かにしてくれます。

アリ、ダンゴ虫、セミの抜け殻など、小さな生き物に出会い、驚き、初めは触れなかつた子どもたちが、日に日に興味を持って一心に探すようになる姿も見られます。この秋は蛾の幼虫を見つけ、そのうちの一匹は年長組に引きつがれ羽化するのを見守っています。

園舎に添って縦に長い裏庭は、段ボールの電車で行き来したり、かけっこをしたりするのに丁度よい空間です。砂場では、飽くことなく水を運び、川や海や温泉等、思い切り泥んこ遊びを楽しんだ子どもたちが、全身シャワーを浴びてさっぱりとして各保育室へと戻って行きます。

これからも、裏庭の環境が十分に生かされ、子どもたちにとつてかけがえのない遊び場であり続けられるようにと願っています。



葉っぱの杖作ろうよ

## 「ワーク」―父子が心交わり働く日―

本園では、創設当初から「ワーク」という行事を大切にしてきました。年長組（五歳児）の父子一五組ほどが幼稚園に集まり、子どもたちの遊びや暮らしに必要なもの（遊具や家具）を木材で作成したり、修理したり、ペンキぬりをするのが中心です。庭ではシーソー作り、ままごと小屋作りや修理、すのこ作り等、部屋の中ではテーブルや椅子作り等、その時期に欲しいものや修理したいものをお父様と共に作ります。ワークに集まった者以外は誰もいないゆったりとした園内で、お父様と一緒に過ごす子どもたちは、特別な様子で嬉しそうです。ワークの日は礼拝から始まり、『はたらく』ということはまわりの人を喜ばせ安心



相談しながら力を合わせて木を切ります

させることであり、それは聖書の「隣人を自分のように愛しなさい」（マルコ十二：三一より）というみことばにつながっていることを心にとめます。作業が始まると、子どもたちは畑仕事やお料理の合間に、お父様方が話し合いながら力を合わせて働く様子を見て「お父さん、力持ちだね」「がんばって」等と声をかけます。園で木工が自分の遊びのひとつになっている子どもたちだからこそ、お父様が力強いのこぎりをひく姿や、ものを作りあげていく過程に入り、憧れるのでしょう。子どもたちも木工作業の一部を、お父様の傍らでさせていただきます。子どもも大人も身体をいっただけです。子どもも大人も身体をいっただけです。子どもも大人も身体をいっただけです。い動かして心地よい疲れと共に、充実感を感じてる日であることを嬉しく思っています。



子どもたちもお父様を真剣なまなざしで見つめます

これからも、「ワークの日」の楽しさが、その意味と共に継承されていくよう願っています。

日本基督教団牧師  
日本キリスト教協議会総幹事あみなか しょうこ  
網中 彰子さん

1987年高等部卒



## 楓の園の風に吹かれて

日本基督教団の牧師となり、現在は日本キリスト教協議会の総幹事として、まさに「敬神奉仕」の道を歩まれ、ご活躍されている網中さん。英和生時代からの導きを振り返るとともに、在校生・卒業生へのメッセージをお寄せくださいました。

## 敬神奉仕

「彰子ちゃんは校風に染まりやすいので、カトリックの学校に入ったからシスターになってしまいます。自由な校風の東洋英和を受験したらいかがでしょうか。」近くの公立小学校に通わせようとしていた両親にそうアドバイスしたのはシスターの園長先生でした。その後中3で受洗し

牧師となったので結局校風にしっかりと染まったかなと改めて思います。小学部ではリレーのアンカーをやるほど足が速いのに、校庭の泰山木から落ちて骨にひびが入るなど、運動神経がいいのか悪いのか、年に一度は包帯をしていました。絵を描くのも大好きでデザイン部でポスターを描いたり、英会話の授業も好きでペンフレンド部にもいました。留学経験のない私が国際会議で英語を話すと、どこで習得したか尋ねられま

す。カナダの宣教師が創設した学校で小学校二年から宣教師による英会話の授業があったと言うと、いい学校だと褒められます。「天地創造」の合唱ではアルトのソロを担当するなど、楽しくて仕方ない小学部時代でした。

## 変わらないもの

高等部の頃図書館が新しくなりました。その一角に古い本ばかりの棚。哲学書でした。何か大切なことが書いてあるのだろうと難解な単語は飛ばしつつ読んでみました。私の結論としては「人は生きるとは何かを悩んでいる」。それは人の世界の中では解決せず、命の造り主である神さまが生きる意味も既に備えていると確信しました。神さまが共にいる幸いを伝えたい、将来は牧師になりたいと思ひ、聖書科の佐藤順子先生に牧師になるには何かが必要か尋ねました。先生は一言「召命感です。」とおっしゃいました。頭をゴンと叩かれたような思いでした。私の意思ではなく神さまが召してくださるまで、学びつつ時を待つことになりました。

## ミレニアムから

次の千年、世界が平和でありますようにと祈りつつ始まった翌年二〇〇一年九月十一日。アメリカで同時多発テロが起きました。テレビ

で二機目の飛行機がビルに衝突したのを見た時、「伝道に行かなければ！」と思ってしまうました。経済的格差の課題等事件の背後についてさまざまな解説がありました。人が神の名を騙って過ちを犯す傲慢さを突き付けられました。私たちの中にある自己中心という罪。神さまはそこから救おうといつも変わらず愛をもって語りかけてくださっている。私一人が伝道したからといって何かすぐに変わることはなくとも、福音を正しく宣べ伝えたいと召命に答え、試験を受け、三九歳で牧師となりました。今は日本キリスト教協議会という団体で事務方の代表者をしていきます。日本国内では教派を越えた交わりに加え、カトリックの皆様や仏教者の皆様とも時々共に活動します。キリスト教団体も共に活動するので、一九八三年のクリスマスに聖ヶ丘教会で山北宣久牧師より共に洗礼を受けた一年先輩の侯野尚子日本YWCA会長とも一緒にすることがあります。教会に説教に行くと、ほぼ必ずといっていいほど英和の卒業生がおられる。年齢を重ねてなお洗刺としておられる様子に希望と魅力を感じています。牧師になって初めての同窓会で、幹事が短く礼拝する時を作ってくれました。終わるとN子が「皆々私たちがアミを神さまにお捧げしたから何かあっても大丈夫よ〜！」という

ので皆で笑ってしまいました。英和に入学した時点で「敬神奉仕」の世界の住人となった英和生は何があっても神さまに守られているので大丈夫です。信仰によって来日し英和を創った女性宣教師の勇氣も、個人の資質ではなく、ただ神さまを信頼することによって与えられたものです。校風を校内に留めず、どこにいても華やかな英和風を吹かせましょう。



インドネシア・ジャカルタで開催されたアジアキリスト教協議会(CCA)にて、竹製のアンクルンという楽器が全員に配布され「神さまにより調和する」とのイメージでその場で合奏しました。

■あみなか しょうこ／1968年東京生まれ。東洋英和女学院小～中～高等部卒業。立教大学文学部キリスト教学科卒業。TV局制作スタッフ、随行通訳、日本基督教団総幹事秘書を経て2007年～聖ヶ丘教会伝道師・副牧師、2008年～ペテル教会牧師、2012年～日本キリスト教協議会総幹事。共同翻訳書『グラウンド・ゼロからの祈り』ジェームズ・R・マグロー著、山北宣久監修、日本キリスト教団出版局2004年8月発行。

# 聖書の言葉

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるのか。」

マルコによる福音書 八章三六節

この絵画を見るとき、二重の感動がわき起こる。一つは、哲学者ソクラテスの勇姿への感動である。彼は、「魂ができるかぎりすぐれたものになる」ように留意せよと、自他に説き続けた。その魂に留意する生の集大成として、差し出された毒杯を従容としてあおぎ、この世を旅立った。



ジャック＝ルイ・ダヴィッド  
「ソクラテスの死」

もう一つは、イエス・キリストの十字架への感動である。私は、大学一年の時にソクラテスを学びはじめ、その後まもなくキリストを自己の魂の中に受け入れた。それゆえ、ソクラテスとキリストは二重星である。キリストも、「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命（＝魂）を失ったら、何の得にならうか」と、魂への留意を説き、それを生死において具現した。それゆえダヴィッドの画は、キリストを彷彿とさせるのである。

大学宗教主任  
国際社会学部  
国際コミュニケーション学科教授

三上 章

## 訃報

―心より哀悼の意を表します―

塚本 哲也氏

元大学学長、大学名誉教授、元常務理事、元大学付属かえで幼稚園長等

二〇一六年一〇月二二日

## おたよりコーナー



「敬神奉仕」を特集した今号では、中高部卒業生が寄せてくださった礼拝の思い出をご紹介します。これからもみなさまからの便りをお待ちしております。

### 「贅沢な」朝の礼拝

中高時代を英和で過ごした私は、6年間で合計900回以上の礼拝を守って育ちました。入学した1996年は中高の新校舎が完成した年でもあり、真新しい新マーガレット・クレイグ記念講堂の美しさと壮大さに胸を高鳴らせていたことを思い出します。

短い礼拝の時間ではありますが、授業でお会いする時とは少し違った雰囲気のある先生方のお話が、毎朝の小さな楽しみでした。しかし実はもっと楽しみにしていたのが、讃美歌を歌う時間でした。そして、この讃美歌の時間をさらに素敵なものにする魔法が、河野和雄先生の奏でるオルガンでした。1番、2番と譜面通りの厳かな伴奏が流れ、3番になると少しアレンジがわかり（慣れないうちは「あれ?」と不思議に思ったものです）、4番にはまさにフィナーレのごとく最大の盛り上がりを見せる…まさに朝から贅沢なオルガンコンサートの真ん中に居る気分でした。

大切な朝の礼拝は6年目にはすっかり体に沁みつき、高3の冬の受験シーズンになっても、登校する必要はありませんでしたが特別に後ろの列に座らせていただき、朝の礼拝を守ってから図書室で勉強する毎日でした。

現在、ご縁あって別のミッションスクールに勤めさせていただいておりますが、ここでは毎朝教室でクラスごとに礼拝を守っています。奏楽係の生徒が選んだ讃美歌を皆で歌う瞬間、英和の大講堂での光景が蘇ってきます。パイプオルガンの音色を頭の中で響かせながら、背筋の伸びる思いで今日も明日も、讃美歌を歌います。

田林 (旧姓:佐藤) 牧子  
高等部 2002 年卒

●お便りお待ちしております!●

〒106-8507 港区六本木5-14-40 東洋英和女学院法人事務局総務企画部総務課 まで  
E-mail: koho@toyoeiwa.ac.jp でもお待ちしております。



## 史料室レター

No.21

### 学院ホームページに 史料室のページが加わりました

九月より学院のホームページが一新されたことにお気づきでしょうか。「学院の歴史」のページからすぐに「史料室」のページに入ることができるようになりました。

現在開催中の企画展の内容などは「史料室からのお知らせ」で確認できます。また、充実した内容で学院の歴史を取り上げている定期刊行物「史料室だより」の誌面も、最新号だけでなく、バックナンバーも近々全号ウェブで読めるようになる計画です。乞うご期待!

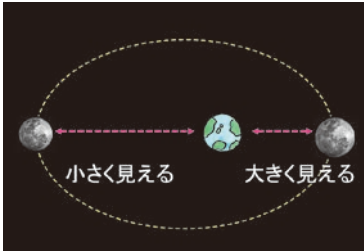


新設された「史料室」ページ

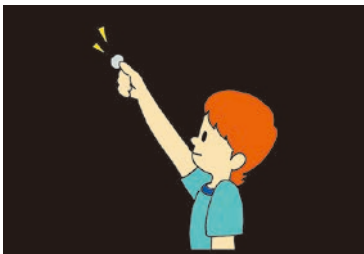
史料室連絡先 ● TEL : 03-3583-3166 FAX : 03-3583-3329  
E-mail : archive@toyoeiwa.ac.jp



いちばん小さく見える満月とスーパームーンの大きさ比べ。直径で約14%、明るさは約30%明るくなる



月の軌道は楕円軌道。いちばん近い時は35万6千km。いちばん遠い時は40万5千km（図は極端に表現してあります）



まっすぐ伸ばした手に何を持ってば月と重なって見えるでしょうか？

みなさん、こんな経験はないでしょうか。「夕方、昇ったばかりの月がとても大きく見えた。でも夜遅くに見てみると月は空高く登り、小さくなっていった」。同じ日なのに…どうして？と不思議に思ってしまった経験は、ありませんか。実はこれは「錯覚」です。錯覚だと話しますと「うそ!?」と驚かれる方もいます。見上げた時と真つ直ぐ水平に見た時では、人間は水平に見た時の方が大きく感じてしまうのだそうです。さらに昇ったばかりの低い月は景色も一緒に目に入り、見比べてしまいます。そのためにより大きく感じてしまうのだそうです。

さて、数年前より「スーパームーン」という言葉がマスコミやインターネットで盛んに取り上げられるようになりました。実はこの言葉は古い用語で、天文用語では「ペリジー・フルムーン」といいます。月は地球の周りを円ではなくやや楕円の軌道で回っています。このため遠い時と近い時とで一割くらいですが地球との距離が違ってきます。一回の満月ごとに、いちばん地球に近くなります。これがスーパームーン（ペリジー・フルムーン）です。この間隔は一年と二ヶ月弱に一回ということになりますので、大体一年に一回起こります。去年十一月一四日にスーパームーンとなりました。次は来年の一月二日。ですから今年のスーパームーンはお休みとなります。

さて、それでは月はどのくらい大きく見えるのでしょうか。まっすぐ腕を伸ばした手にどのような大きさのものを持つと丁度、月と重なって見えるでしょうか？それは、何と五円玉。それも本体ではありません。五円玉の中央に空いている穴です。意外と小さいので驚きます。ぜひ、やってみてください。昇ったばかりの月と高いところにある月が、どちらも同じ大きさということがこの方法で解ります。

さて、それでは月はどのくらい大きく見えるのでしょうか。まっすぐ腕を伸ばした手にどのような大きさのものを持つと丁度、月と重なって見えるでしょうか？それは、何と五円玉。それも本体ではありません。五円玉の中央に空いている穴です。意外と小さいので驚きます。ぜひ、やってみてください。昇ったばかりの月と高いところにある月が、どちらも同じ大きさということがこの方法で解ります。

## 同窓会より

### ● 同窓会クリスマス礼拝報告 2016年12月3日(土)

今年度も12月第1土曜日にクリスマス礼拝が守られ、厳かな雰囲気のもと吉本真理牧師（国際基督教団代々木教会）より「天に栄光、地に平和」と題して喜びのメッセージをいただきました。大学オーケストラ部の演奏でハレルヤを歌い、幅広い世代の同窓生が心を合わせてクリスマスを祝いました。礼拝後はクリスマス・ミニコンサートとして、始めに演奏の三原麻里さんがオルガン交響曲を華やかに演奏、続けて現役音大生がソプラノ・ピアノ・フルート・ヴァイオリン・ハーブをいろいろなアンサンブルで6曲披露してくださいました。最後のクリスマス・キャロルメドレーでは5人と会場が一つになり、楽しいひとときは幕を閉じました。集会室でのお茶の会では伝統のクリスマスケーキと共に和やかな歓談の時間が持たれました。



吉本真理牧師



大学オーケストラ部の演奏でハレルヤ



ミニコンサートのクリスマス・キャロルメドレー

## 後援会より

### ● 2016年度後援会役員懇談会報告

10月7日(金)、後援会役員懇談会がANAインターコンチネンタルホテル東京で開催され、学院側も含め約110名が出席しました。幼稚園から大学までの学院各部を8つのグループに分けて分科会が行われ、授業、クラブ活動、受験対策、危機管理、国際交流、就職活動などについて、後援会役員と教職員が忌憚のない意見交換を行いました。



全体会



小学部部門の分科会



懇親会での小泉光人後援会会長の挨拶

## お知らせ

### 2017年3月卒業のみなさんへ

「楓園」は、年3回の発行のうち、9月号と1月号が「東洋英和楓の会」により同窓生全員に無料送付されます。また、学院ホームページに毎号掲載しますので、卒業後も是非読んでください!

東洋英和女学院 学院報 楓園 第82号

発行日：2017年1月30日

編集：広報委員会

発行：学校法人 東洋英和女学院 東京都港区六本木 5-14-40 Tel：03-3583-3325

メールアドレス：koho@toyoeiwa.ac.jp ホームページ：http://www.toyoeiwa.ac.jp